

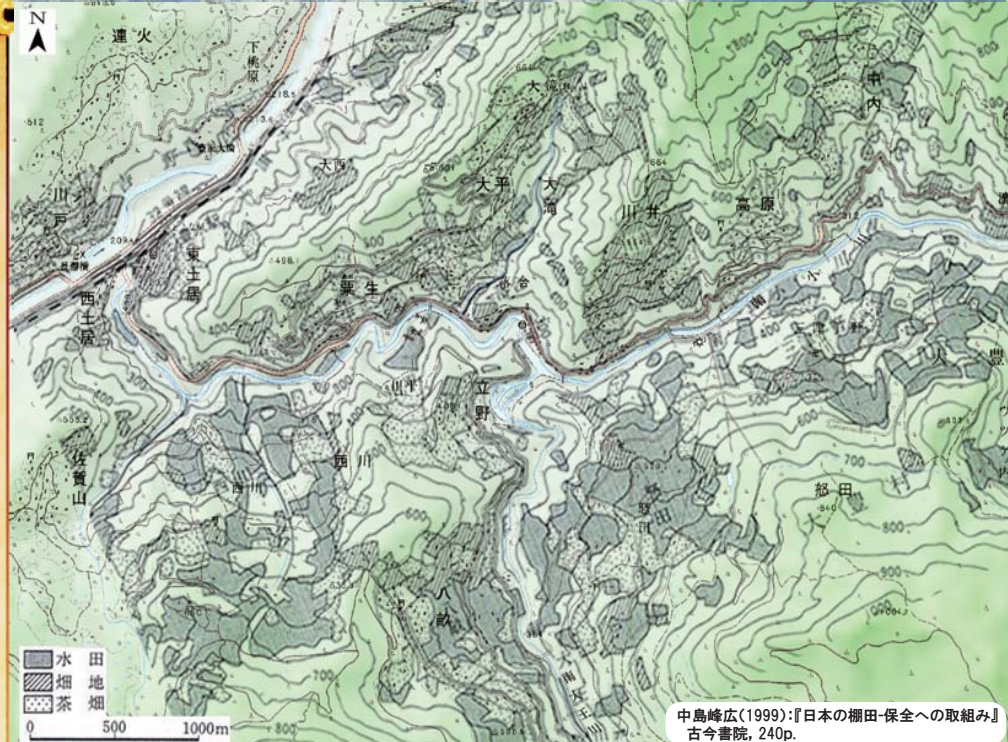
# 四国を縦断するには



吉野川上流の怒田・八畝地区は、地すべりと土地利用が調和した美しい景色が広がっています。地すべりは、時として災害の原因にもなりますが、見方を変えると自然が土を耕してくれているし、水源に近くきれいな湧水も豊富です。いわば農耕に適し、豊かな生態系を育む土地を、長い時間をかけて自然が用意してくれていたと言えます。

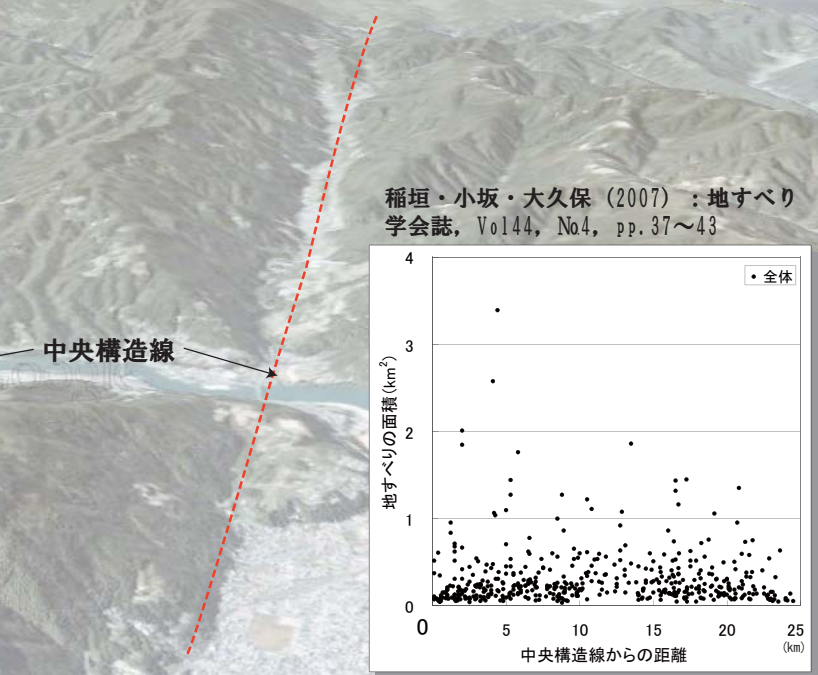


地すべり地の土地利用は、土質や傾斜と大きく関わっていることが分かっています。例えば御荷鉾帯と呼ばれる緑色岩類から造りだされる土壌は、粘土質で保水がよくなだらかな斜面に水田が多いこと、三波川帯と呼ばれる結晶片岩類から造り出される土壌がローム質で保水性が小さく急傾斜で、畑として利用されている土地が多くなっています。



## コラム - 中央構造線と地すべり

これまでみてきた四国の地すべり地形は、日本を代表する活断層である中央構造線に近いほど面積が大きく、遠ざかるほど面積が小さくなるのが分かっています。これは、地すべりが中央構造線を震源とする直下型地震によって形成されていることを反映した結果と考えられています。



2004年の洪水による吉野川のせき止め土砂。川沿いの道は大洪水のたが土石流が堆積して交通の妨げになりました。このため、大豊町から土佐へ抜ける道は川沿いだけでなく尾根の道も利用されたと考えられます